

# 数学 (Ⅲ) 九州大学 工学部

## <全体分析>

試験時間 120分

解答問題数

5題

### 解答形式

全問記述式

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

### 出題の特徴

どの問題にも3～4題の小設問があり、基本から発展レベルまでの幅広い出題となっている。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

特になし。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	微分法	数学Ⅲ	2曲線 $y=ax^2$ , $y=\log x$ が異なる2点で交わる条件、平均値の定理を用いた不等式の証明	標準
[2]	三角関数、数列の極限	数学Ⅱ、Ⅲ	三角関数の方程式の解の和に関する極限	標準
[3]	空間ベクトル	数学B	動点を頂点にもつ四面体の体積の最大値	標準
[4]	図形と方程式、式と曲線	数学Ⅱ、Ⅲ	極座標を用いた二変数関数の最大・最小	やや易
[5]	確率	数学A	コイン投げの結果に応じて数直線上を動く点の座標に関する確率の問題	やや難

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

幅広い範囲からの出題となっており、難度は高いが、いくつかの小設問に分けられているので、まずは基本から標準的な内容に対応できるような学力を身につけておくことが大切である。その上で融合問題やハードな内容の問題演習に取りくんでおきたい。